全国大学音楽教育学会第 40 回全国大会〈浜松大会〉第二次案内(最終)（訂正版） 2025 年 7 月 10 日

標記の件につきまして、下記のとおりご案内申し上げます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

1．大会テーマ　　多様な音楽文化を通して考える保育者・教員養成
～今を生きる子どもたちのために～

2．期　日　　2025 年 8 月 28 日（木）・29 日（金）・30 日（土）

3．会　場　　アクトシティ浜松（中ホール・コングレスセンター）
静岡県浜松市中央区板屋町 111-1
＊中ホールへは、JR 浜松駅前・地下バスターミナル広場からのアクトシティ連絡地下通路が便利です。
＊コングレスセンターへは、JR 浜松駅北口広場から動く歩道でのアクセスが便利です。
＊中ホール、コングレスセンターどちらも、JR 浜松駅からの所要時間は、徒歩 5 分です。

4．日　　程

第 1 日　2025 年 8 月 28 日（木）

常任理事会	12：30～14：00	コングレスセンター22+23 会議室*
理事会	14：00～16：30	コングレスセンター22+23 会議室*
研究演奏発表受付	16：00～17：00	中ホールロビー
中ホール開場	16：30～	
研究演奏発表	17：00～20：00	中ホール　**※1**
理事情報交換会	20：20～22：00	場所未定

＊常任理事会及び理事会は、22、23 会議室を繋げて使用します。

第 2 日　2025 年 8 月 29 日（金）

受付	9：15～ 9：45	コングレスセンター4 階ロビー
開会式	9：45～10：00	コングレスセンター41 会議室
学会創立 40 周年記念講演	10：00～11：45	コングレスセンター41 会議室　**※2**

「Children’s Vocal Ecologies and the Pedagogy of Power（子どもの声の生態学と権力の教育学)」
講演者：Joshua D. Pilzer（ジョシュア・ピルザー）氏
(Professor of Ethnomusicology at the University of Toronto（トロント大学・教授、民族音楽学))
（講演のタイトルが変更となりました。）

事務連絡	11：45～11：50	コングレスセンター41 会議室
総会	11：50～12：20	コングレスセンター41 会議室
昼食	12：20～13：45	コングレスセンター41 会議室
研究口頭発表	13：45～16：30	コングレスセンター41、43、44 会議室　**※3**

（研究口頭発表の開始時間が変更となりました。）

情報交換会	18：00～20：00	マイン・シュロス

第３日　2025 年 8 月 30 日（土）（第３日の会場が変更となりました。）

受付　　9：30～10：00　中ホールリハーサル室１号

ワークショップ　　10：00～11：30　中ホールリハーサル室１号　**※4**

「音楽・動き・ことばで遊ぼう！～オルフ・シュールヴェルクの考え方に基づいて～」

講演者：永岡和香子氏（浜松学院大学短期大学部教授、日本オルフ音楽教育研究会副代表）

＊パンツ等、動きやすい服装、靴でご参加ください。

閉会式　　11：30～11：45　中ホールリハーサル室１号

５．主　　催　　全国大学音楽教育学会

６．主　　管　　全国大学音楽教育学会中部地区学会

７．参加申込方法

参加申込は、下記ＵＲＬまたはＱＲコードより、必要事項を記入の上、送信してください。
入力時に確認した合計金額を下記口座にお振込みいただいた時点で、受付完了となります。

（参加申込締切 7 月 31 日）

https://forms.gle/NejTfQGt7CMcXNAv8

８．参加費用

会員：8,000 円　（申込締切 7 月 31 日）
一般：1 日目　1,000 円
　　2 日目　5,000 円
　　3 日目　3,000 円
学生：1 日　1,000 円
情報交換会参加費（事前申込）：6,000 円
昼食弁当（事前申込）：1,000 円（税込み。お茶はつきません）※29 日のみ

振込先

ゆうちょ銀行
店名・店番：208　普通預金
記　　号：12000
口座番号：2671805
名　　義：全国大学音楽教育学会中部地区学会
備　　考：ゆうちょ銀行間における「記号」からの振込先は、口座番号が 26718051 になります。

－お願い－
振込みの際には、氏名、所属先の順に入力してください。（所属先を先に入力すると、振り込まれた方の氏名が読み取れない場合が生じることがあります。ご協力をお願いいたします。）

９．お問合せ先・大会事務局　岩佐明子　E-mail　akikoiwasaklavier@gmail.com

※1　研究演奏発表プログラム

1．ピアノ独奏　伊藤桂子（札幌国際大学短期大学部）（北海道地区）
曲目：ウィーンの謝肉祭の道化 作品 26 より第 4 曲、第 5 曲（R.シューマン作曲）

2．ピアノ独奏　若杉友恵（横浜高等教育専門学校）（関東地区）
曲目：「献呈」S.566　R.253　（R.シューマン作曲＝F.リスト編曲）

3．ソプラノ独唱　進藤麻衣（志木市リトミック教室主宰）（非会員）
ピアノ　宇杉美絵子（昭和学院短期大学）（関東地区）
曲目：おはなしゆびさん（香山美子作詞、湯山昭作曲）
おんがく絵本『ぽぽんぴ　ぽんぽん』ささめやゆき／絵、松竹いね子／文、2007 年福音館書店（宇杉美絵子作曲）

4．ピアノ独奏　若原真由子（飯田短期大学）（関東地区）
曲目：3 つの前奏曲より第 3 曲「対比の戯れ」（デュティユー作曲）

5．作品発表（歌曲）・ピアノ　金井秋彦（大阪信愛学院大学）（関西地区）
バリトン独唱　奥村哲（非会員）
曲目：「山の声」（詩：西田純、曲：金井秋彦）
「木のなかへ」（詩：西田純、曲：金井秋彦）

6．ソプラノ独唱　久保紘子（玉川大学）（関東地区）
ピアノ　津島圭佑（玉川大学）（非会員）
曲目：『ふるさとの四季』（源田俊一郎編曲）より抜粋
「ふるさと」（高野辰之作詞・岡野貞一作曲）「朧月夜」（高野辰之作詞・岡野貞一作曲）「茶摘」（文部省唱歌）「紅葉」（高野辰之作詞・岡野貞一作曲）「冬景色」（文部省唱歌）

7．ピアノ連弾　Primo　川畑尚子（大阪キリスト教短期大学）（関西地区）
Second 山内信子（関西学院短期大学）（関西地区）
曲目：ノルウェー舞曲　作品 35 より第 1 曲（E.グリーグ作曲）
カンタータ“楽しき狩こそわが悦び”BWV207 より第 9 曲「羊は安らかに草をはみ」（J.S.バッハ作曲）

8．ピアノ独奏　小谷朋子（大阪常磐会大学短期大学部）（関西地区）
曲目：プレリュード作品 28 より第 14 曲・第 15 曲（F.ショパン作曲）

9．ピアノ独奏　山賀英美（十文字学園女子大学）（関東地区）
曲目：水の戯れ（ラヴェル作曲）

10．ソプラノ独唱　桐山由香（大阪青山大学）（関西地区）
ピアノ　山岸多恵（平安女学院大学）（関西地区）

曲目：《窓辺の神戸》（作詩：柴田実　作曲：山岸徹）
《星合いの夜》（作詩：小林憲子　作曲：山岸徹）

11. バリトン独唱　三沢大樹（東海大学）（関東地区）
ピアノ　新海節（安田女子大学）（中・四国地区）
作曲　山本学（静岡県立大学短期大学部）（中部地区）
曲目：だからその海をみない（詩：山下千江　曲：中田喜直）
アナベル（詩：今村佳枝　曲：山本学）（改訂初演）

12. ピアノ独奏　木村貴紀（北海道教育大学旭川校）（北海道地区）
曲目：喜びの島（C.ドビュッシー作曲）

13. ピアノ独奏　永井正幸（大阪青山大学）（関西地区）
曲目：３つのドイツ舞曲 D.971（F.シューベルト作曲）
３つのドイツ舞曲 D.972（F.シューベルト作曲）
３つのドイツ舞曲 D.973（F.シューベルト作曲）

14. ソプラノ独唱　坂本利枝子（八戸学院大学短期大学部）（東北地区）
ピアノ　中嶋栄子（八戸学院大学短期大学部）（東北地区）
曲目：Frühling ist gekommen（春がきた）（高野辰之作詞/坂本利枝子訳詞・岡野貞一作曲）
Der Klang unsere Schuhe（靴がなる）（清水かつら作詞/坂本利枝子訳詞・弘田龍太郎作曲）
Auf die Schulter klopfen（肩たたき）（西條八十作詞/坂本利枝子訳詞・中山晋平作曲）

15. 作品発表（ピアノ曲）　山岸徹（大阪キリスト教短期大学）（関西地区）
ピアノ　平松愛子（西南学院大学）（九州地区）
曲目：ピアノのための『桜の幻想』より　I 薄明の桜（山岸徹作曲）

16. ピアノ独奏　鹿戸一範（秋草学園短期大学）（関東地区）
曲目：ヴォカリーズ Op.34-14（ラフマニノフ作曲、鹿戸一範編）

17. ソプラノ独唱　安川裕子（神戸女子短期大学）（関西地区）
ピアノ　永井正幸（大阪青山大学）（関西地区）
曲目：「さくら」（三浦照子 作詩・山岸徹 作曲）
「木蓮」（三浦照子 作詩・山岸徹 作曲）

18. ピアノ独奏　中島龍一（日本体育大学）（関東地区）
曲目：「子どもの歌」メドレー　オリジナル編曲版
①どんな色がすき（坂田修・坂田修・中島龍一）～②とんぼのめがね（額賀誠志・平井康三郎・中島龍一）～③おはようクレヨン（谷山浩子・谷山浩子・中島龍一）～④お空の色は何色かな（冬野あり・上田豊・中島龍一）～⑤雲が晴れたら（彩恵津子・羽田一郎・中島龍一）～⑥チューリップ（近藤宮子・井上武士・中島龍一）⑦にじ（新沢としひこ・中川ひろたか・中島龍一）

19. ピアノ独奏　田中慈子（京都光華女子大学）（関西地区）
曲目：4 つの小品 作品 4 より第 3 曲：絶望、第 4 曲：悪魔的暗示（S.プロコフィエフ作曲）

20. ピアノ連弾　プリモ　　大石あかね（非会員）
セコンド　林麻由美（帝京短期大学）（関東地区）
曲目：デカリシモ（A.ピアソラ作曲）
リベルタンゴ（A.ピアソラ作曲）

※発表時間等の詳細につきましては、後日、発表者の方にご連絡いたします。

※2　基調講演

講師　Joshua D. Pilzer（ジョシュア・ピルザー）氏　プロフィール

トロント大学 民族音楽学 教授。専門は、現代の韓国と日本における音と音楽の人類学、「声」の研究、ジェンダー、トラウマ、日常生活研究。特に、「日常」のエスノグラフィー、音楽を他の社会的表現の形態と結びつける境界領域、そして音楽の枠を超えた民族音楽学の展望に強い関心を寄せている。

現在、現代日本の日常生活における「声」をテーマとした3冊目の著書（仮題『Civil Voices』）執筆のため、フィールドワークを行っている。この研究は、「声」が法、社会、そして資本への服従にどのように関わっているのかを明らかにする。

主な著書に、戦時下のいわゆる慰安婦制度を生き延びた韓国人たちの生活における歌について論じた『Hearts of Pine』（オックスフォード大学出版局、2012年）がある。また、2022年には、広島での原爆投下を生き延びた韓国人被爆者とその子供たちにおける「生き抜くための術（アート・オブ・サバイバル）」に関する『Quietude: A Musical Anthropology of 'Korea's Hiroshima'』を出版している。

要旨

本講演では、現代の日本の子どもたちが生きる「声の生態学」（vocal ecology）の様々な側面についてお話しします。「声の生態学」とは、人々が日々さらされている多様な声の集まりを指しています。私が特に関心を持っているのは、〈声〉の持つ力、とりわけ〈声〉が子どもに「自分が誰であるべきか」「どのような人間になるべきか」「どう振る舞うべきか」を教える力です。

声が伝える言語的なメッセージはもちろん重要ですが、音楽の研究者である私は、言葉の意味以上に、声そのものがどのように「響くか」に注目しています。言語学や言語人類学では、こうした声の特徴を「発話韻律（speech prosody）」と呼び、言語を補完する要素として扱います。

しかし、私の視点では、それらの音声的・準言語的な特徴は、言語に先立つ、あるいは並行して存在する「音楽的」な要素であり、美的な意味をもつものと捉えています。そうした観点から、私は声の高さ、音色、強弱、リズムといった要素に着目しています。

子どもを取り巻く声の生態学の中における〈権力〉のありようを明らかにするために、私は子どもたちに最も影響を与える声、つまり子どもに「教える」役割を果たす声に焦点を当てます。たとえば、親、教師、指導者の声は大きな役割を担っていますが、アニメのキャラクターやテレビ番組などの声もまた、子どもに様々なことを「教え」ています。幼い子どもが遊ぶ音の出るおもちゃの声も然りです。

おそらく最も重要なことは、子どもたちが互いを模倣しながら学ぶという点です。つまり、子ども自身の声こそが、この学びのプロセスにおいて不可欠な存在なのです。

※３　研究口頭発表プログラム

会場	氏名	題　目	地区
A会場 41会議室	友永 良子 杉山 祐子	子どものうたの伴奏簡易化の観点 －AI を活用した簡易伴奏の検討の過程より－	中部
	佐野 仁美 岡林 典子 坂井 康子	唱え言葉からの旋律づくり―小学校第５学年の実践から―	関西
	曽田 裕司	歌のオノマトペは人間性の境界においてどのように働くのか	関西
	土門 裕之	創作ミュージカル活動実践報告「拓殖大学北海道短期大学の事例から」 ～41 年間の変遷と最終公演が抱えた課題～	北海道
	若原 真由子	保幼小接続の音楽的側面における課題 －「架け橋プログラム」の分析から－	関東
B会場 44会議室	金井 秋彦	日本音階由来のコード作成の試み ―小学校歌唱共通教材の簡易伴奏のために―	関西
	津田 奈保子	異文化理解とアイデンティティ確立を促す保育者育成の新アプローチ ―音楽でつなぐ日本とフィリピンの幼児教育現場より―	関西
	堀田 彩乃	歌や楽器を嫌がる子、合奏に参加しない子について －保育者を目指す学生と考察する－	中部
	杉原 由利子 松田 扶美子	子どもの遊びうたの創作と保育実践における有用性の検証	関東
	藤山 あやか	地域子育て支援拠点におけるコミュニティミュージックの実践的意義 ―「音楽を通して地域で子育てを楽しもう」の試み―	中・四国
C会場 43会議室	新海 節	保育者養成校におけるピアノ教育再考 ――感性と表現に関する領域「表現」を踏まえた指導の検討――	中・四国
	野田 日出子	民族音楽・伝統文化を共有することの意義 ―クロアチアでのフィールドワークから考える―	関東
	長島 礼	小学校音楽科における器楽学習に関する研究 - 教師の発問を分析することから子ども主体の授業を考える -	関西
	小川 久恵	保育における音楽療育の専門性育成の取り組み ～こども音楽療育士の学びを通して～	北海道
	本野 洋子 岡村　弘	小学校教科書におけるわらべ歌②	関東

※発表時間等の詳細につきましては、後日、発表者の方にご連絡いたします。

※4　ワークショップ

講師　永岡和香子（ながおか　わかこ）氏

浜松学院大学短期大学部教授。武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科卒業。オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルテウム大学音楽と動きの教育（オルフ研究所）修士課程修了。日本女子大学大学院人間生活学研究科人間発達学専攻博士課程後期単位取得満期退学。同大学院再入学、修了（博士（学術））。

日本オルフ音楽教育研究会副代表。子どもから大人までを対象にした表現に関するワークショップ、講習会の経験多数。

分担（執筆）：

『コンパス保育内容表現』建帛社 2019, pp.113-122.

『オルフ・シュールヴェルクの研究と実践』朝日出版社 2015, pp.47-68.

Movement and Dance in Orff Schulwerk, Pentatonic Press 2024, pp.175-176.他

概要

子どもも大人もリラックスして自由に表現できるオルフ・シュールヴェルクの考え方に基づいた音楽・動き・ことばによる活動を、みなさんと一緒に楽しみたいと思います。ワークショップの内容は、これまでに私が子どもとの活動、養成校での授業、研修会などで実践してきたものを基本にして、〈浜松大会〉ワークショップとして再構成したものです。

ことばのリズムとからだが無理なくつながることで、表現する心地よさ楽しさを感じていただければ幸いです。また、ワークショップを通して、参加してくださるみなさんの交流が深まればうれしいです。